

太陽がいっぱい (Plein Soleil)

観賞日 2025 年 6 月 23 日 上映時間 118 分

【概要】

制作 1960 年 フランス・イタリア

監督 ルネ・クレマン

脚本 ポール・ジェゴフ、ルネ・クレマン

原作 パトリシア・ハイスミス

音楽 ニーノ・ロータ

撮影 アンリ・ドカエ

出演 アラン・ドロンの (トム・リプレー)、マリー・ラフォレ (マルジュ・デュヴァル)

モーリス・ロネ (フィリップ・グリーンリーフ)、ビル・カーンズ (フレディ・マイルズ)



【あらすじ】

貧しく成り上がり指向が強い青年トム・リプレー。トムはフィリップの父親から成功報酬 5000 ドルで放蕩息子のフィリップをローマからサンフランシスコに連れ戻して欲しいという依頼を受ける。しかし、フィリップは戻る気が全くない。ある日、トムはフィリップと彼のフィアンセでパリジェンヌのマルジュと三人でヨットに乗り込む。途中でマルジュが下船した後、船上でトムは日頃の鬱憤を晴らすかのようにフィリップを殺害する。その後、完全犯罪を目指すトムはフィリップに成りすます。しかし、フィリップの友人フレディに危うく正体を見破られそうになりフレディをも殺してしまう。トムはフレディ殺しの犯人を既に死んでいるフィリップに被せようと企む。フィリップの財産とマルジュの愛情を手に入れたかのようにみえたトムであったが・・・。

圧倒的なオーラと色気。アラン・ドロンの魅力がいっぱい。ドロンの 24 歳の出世作

【解説】

■ポイント

●アラン・ドロンの (1935 年～)

パリ郊外で生まれる。17 歳で海兵隊に志願し、インドシナ戦線に従軍。除隊後「女が事件に絡む時」(57 年)で映画デビュー。本作でスターに。

その後の代表作：「若者のすべて」(60 年)、「山猫」(63 年)、

「冒険者たち」(66 年)「ボルサリーノ」(70 年)。

戦後のフランス映画を代表する大スター。世紀の二枚目と呼ばれた。



■見どころ、聴きどころ

●天国から地獄へ一気に転落する、有名なラスト・シーン

●トムとフィリップの対比

トム (アメリカ人を象徴する名前)：新興勢力、若い肉体

フィリップ (フランス人を象徴する名前)：過去の遺産、放蕩

●イタリアの美しい街並みと紺碧の地中海を撮るアンリ・ドカエのカメラ

●哀愁のなかにも甘美さを秘めたニーノ・ロータのテーマ曲